

蠅螂の斧

第二部

トークライブ2001

第四回

団 士郎

仕事場D・A・N／立命館大学大学院

自分が、難しいことを言っているという自覚はなかった。むしろ、分かり切ったようなことばかり言っているのではないかと思っていた。資料を集めて自分の意見を構成したりしない。世の中に漂う気配や、現象には関心を向けるが、誰かが既に明らかにしたことには関心が薄い。本当にそうなら、自分もいずれ行き着くだろうなどと思っている。だから多分そうだろうと思って話していると、「××さんもそう書いていますね！」と言われることはある。読書中に、「世の中には私とよく似た事を考える人があるなあ」と思うこともしばしばだ。

オリジナリティを、他にはない珍しいモノのことではなく、自分の中から湧き出てきたものことだと思っている。だからその内容が、他の誰かと似通っていたりすることもしばしばある。自分の言っていることを誰かから「**と似ていますね」と最近の分類診断名で指摘されることもあるが、同時代性とか共時性と言われるようなものだろうと思っている。

「ここまでは既に明らかになっている。今、この次の一步が摸索されなければならないのだ」と思うことも増えた。そして、その一步にさしかかっているものへの気づきもある。分かり切ったことを口にして、正しかったとしても、何の手柄にもならない。「手柄」というのも、最近、使わない言葉な気がするが、とにかく次のステージに歩みは進めなければならない。そこは分かり切ったことを示し合う世界ではないと思う。

*

この日誌懐古形式の書き方において最近、覚えている出来事と、記憶にない記述事項の印象が違ってきている気がする。以前は、覚えていることも、覚えていないことも含めて自分の過去だなあと思えた。覚えてはいないが、いかにも自分にありそうなことだと思って読めた。しかし今、十四年前の記述を読んでいて、全く心当たりのないことが登場しはじめている。こんな事は知らない！と思うのだ。

ということは、記録がなければおそらく、「絶対に心当たりがない！」と主張することだということになる。心理学をやっていた人間だから、「記憶」というのがどんなものか知識がないわけではないし、記憶にまつわる様々な偽証、冤罪事件や、誤認の歴史も知らないわけではない。

しかし我が身にこういう実感が登場すると、本当に自分も含めて、人間の「確かに覚えている！」など、あやふやなものだと思わざるを得ない。そして今、ひらめいているのは、これを逆手に取れるのではないかという思いつきだ。

2001年6月(13年前)

06/* もう6月になった金曜日。久しぶりに一日仕事場 D・A・N で用件ができる。講演依頼のFAX二件。一件は日程があわず、もう一件はギャラがあわず断る。連載の季刊「発達」原稿をFAX送信。晩年学フォーラム通信の原稿、思案の末、マンガは5年前の時事モノを使って、リメンバー1995と文章で構成。ケースSVIにF君が定刻来談。二時間3件のケース検討。性教育の本の企画を進めてきたのが大筋まとまった第一稿を芳賀書店編集部へ送付。この出版社はちょっといわくのありそうな書店である。

新聞が郵便受けに貯まるばかりでほとんど読めない。郵便物のじゃまになったりする。ほとんど捨てるだけになっているので、しばらく仕事場 D・A・N の新聞は止めることにした。その件で新聞販売店、外交の粘りに対応。

近年、講演料の話で不快な思いをすることは激減した。単発の講演を引き受けることがほぼなくなったからだ。「家族の練習問題1～5」(ホンブロック刊)の出版記念や、販売促進目的のものを受けることはたまにあるが、何処かのイベントの一コマを私の講演で埋めることの実りは、私にも先方にも少ない。各地での継続的ワークショップ実施に比べると、格段のエネルギー効率差がある。それだけでなく今の日程はギリギリだ。

まだ、余興に巡業しようとは思えないから、気楽な漫談講演会は、もし需要があるなら老後の楽しみにとっておく。今はやはり、次世代育成のトレーナー仕事優先だ。自分が育てて貰ったと思うので、そのお返しはしておかなければならない。こう思って10年以上やってきたことが、あちこちで実っている実感があるから、今の忙しさにも不満はない。

晩年学フォーラムを主催していた上野瞭さん(故人・児童文学者・私に同志社女子大で、氏の後の授業を斡旋してくださった)の依頼で、通信に連載「D'angle」を持っていた。この頃から「近過去」を見るのが好きだった。今と過去の特定の時点と、そしてイメージできるあり得るかもしれない未来をひづるめて考えているのが好きだ。

芳賀書店は会社内のごたごた事情に巻き込まれたの

ではなかったかと思うが結局、「ちんちんがやってきた」は別の出版社(学苑社)からでて、ささやかなロングセラーだ。

06/* 土曜日、KISWECの面接。Sさんは定刻に来談。息子のこと、娘のこと、なにもないわけではないが、でも順調に暮らしている。母親がぼんやり時間を過ごせる人になってきた。これはいいことだろう。兄嫁さんと仲良くなって、二人でぶらぶらして、楽しんでいるらしい。午後のKさんは朝になってからドタキャン。そういう人たちだと、あらためて思う。似たもの父子なのか。ゆっくりバックスタッフと食事をして解散。仕事場でくつろぐ。

06/* S金属・環境エンジニアリング部のプレゼンテーション資料用表紙イラストを仕上げる。時間が押していてなかなか手が付けられなかった仕事。イメージのような仕上げで完成、発送。夕飯後、アーカスシネマで韓国映画「JSA」を観る。「シュリ」のような話かと思っていたらちがった。なかなか複雑な心境の作品。気楽な国にいる私には、想像もしがたい物語はおもしろかった。夜中、長男が泊りにきた。飯を食っているのを相手に一時間ばかりあれこれ話す。

長く関わってきた大企業の仕事も、大きな産業構造の変化から、会社が合併されるところまでいくと、出入り業者になる私など、新状況下では吹き飛んでしまう。世界がそういうものだと思われ知らされるのは、民間企業との接点においてである。

大プロジェクトとして開発されていた事業が、水泡に帰すのも見た。依頼された仕事をしながら、こんな商品は現実的ではないなあと考えていた。ただ、民間の活力はこう言うところから発揮されるもので、それを私が知らないだけかと思っていた。それと比べると、公務員生活や大学教員生活には、なんと言おうと、あてに出来るものが確保されている。

06/** 朝、家裁の調停委員仕事。わけのわからない頑固親父とその娘(四十代になる子連れ)の再婚トラブル。済ませて仕事場であすの準備。その後、津市へ。

この行程を「駅スパート」で検索すると、いくつかルートが出るのだが、経路によって七十三キロと、二百十キロとあ

る。後者は京都から名古屋にいて、そこから津へ。これだと、新幹線4500円余に近鉄特急、もしくはJRの特急利用になる。7000円くらいか。ところが前者なら1450円。おかしくないかこれ。

ひなびた沿線、結構高くそびえる鈴鹿山脈を縫って走るエコノミールートが、時間的に大きく遅れるわけでもない。ただ、ルートとしての過疎。その結果、まるで繋がりが無いようなゾーンになってしまっている。初めて通ったルートであったが、興味深い沿線。元々の東海道は亀山・柘植をこえて来たのだったと思う。

津に到着すると、駅前のグリーンパークホテルは真新しい高層ホテルだった。向かいのうなぎ屋で夕食。うなぎの佃煮かと思うような焼き方と出し方。甘辛い甘辛い、これは中部地区の味付け文化だろう。

携帯にラジオ局Oさんから連絡。池田小学校の児童殺傷事件、電話コメントをといわれるが断る。なんだかこういう打診のされ方に不快感がある。ショックで立っていられなくなっていた母親の姿をニュースで見た。わが子があんな目にあったら、どう心を鎮めればいいのかと思う。

何でもそうだが時は無慈悲に風化させてしまう。もう、話題にすることもすっかりなくなってしまったのが世間だろう。死んだ子の歳を数えている人だけが記憶を新たにしてく。

劇場型犯罪などとも言われ、加害者側の親族が酒を飲みながら評論家の様なことを言うのをワイドショウで垂れ流していた事件である。心のケアが高らかに叫ばれ、被害者周辺にいた子どもたちのために臨床心理士が当然のように動員されるようになったひとつの事件でもあった。私がこの時に感じた違和感は今もそのままだが……

06/** 日本家族心理学会IN三重大でワークショップを引き受けている。朝食にマクドナルドのホットケーキセットを食べて、バスでキャンパスに向かう。思ったより早く到着。大会委員長とあいさつ。講師控室の隣にHさんがいるのを発見して立ち話。学会理事選挙で、私が次点だったとか。辞退者がなかったのか……というトンでもない話を聞く。次点で結構。誰が投票したのだ？

そしてWS開始。十数人の参加申し込みらしかったが、佐

藤悦子さんのプログラムが中止になったとかで、そっちから回る人もあるとか。窮屈な会場でのプログラムになったのは、国立大学の学生用の備品の狭苦しさのせい。

そこそこ快調に済ませて昼食。一時半から総会で、二時半ごろから全体WSだという。二時間以上時間があるので、思案の末、ここで辞去することに。O君がいたので、その旨伝えて出る。駅に着くと、ちょうど十三時発の亀山行きがある。それに乗って帰路に。

このあと仕事場にもどって最終電車の時間まで「木陰の物語」のペン入れ。帰宅、夕食後、夜中、ビデオ「アリー・MY LOVE」を観る。おもしろい。

この時点ではまだ日本家族心理学会にそれほど関わっていない。選挙のことも後の話として聞いたものだ。学会に積極的に関わらなければならない必然が自分の中にない。論文執筆にもアカデミックな様々な動きにも興味がないので、無縁でいようと自分の道筋を作っていた。

その後、次の理事選挙で選ばれて、いろんな経過で常任理事を引き受け、学会NLの編集も引き受けて9年目になる。この間、様々なことが起きるのだが、基本的に私は受け身だった。

06/** 文学部での授業「人間関係論」、9回目である。冊子のコピーを配布したが、650部印刷したのは、大幅に残った。何人受講しているのやら。4時20分からの家族クラスターは、それなりにおもしろいが、出てくるテーマが総論にすぎで、どう手をつけるのやらと思うばかり。早めに終了後、トロント大学ホリスティック教育のジョン・ミラーさんの講演を聞く。瞑想の話だが、外国の人は好きだねと思う。

終了後、創思館の前のベンチで、院生から相談されていた話をする。家族面接に興味をもっているのだが、家族がなかなか同意しないという話。するとその前を、KJが通ったので驚く。講演を聞きに来ていたらいい。

06/** 朝は京都私立幼稚園城南地区研修会で講演。本の販売とパーティー。(翌日の連絡で、150冊売れたそうだが。もっとも8冊分集金が足りないと言っていたが)。会場はいい感じのホールにいっぱい上々。お土産にと持たされた缶入りのオカキが一日の荷物になる。

近鉄で新田辺に。王将で肉団子定食(餃子付き)を注文したが、食後もたれていることに気づく。もうこんなものは食べないほうがいいということか。喫茶店に移動して女子大の授業の詰め。横になりたくて仕方ないほどエライ。昨日、一昨日と睡眠不足のまま走り回っているからか。授業後、講師控室で出欠チェックして、そのまま駅へ。興戸駅のベンチと各駅停車の車中でミニレポート読了。KISWECの訓練は半分すぎたが順調だ。

06/** 10時まで寝ていた。起き抜けはだるいが疲れはとれている。今週のトーク2001の冊子作りが一日かかってしまう。その間に届いていたメールの処理。いどむ(次男)の証券マンミニレポートが面白い。

院生・Nさん依頼の講演会、何か面白い企画にしたい。門真の勉強会に来ているTさんから、東大阪のK中学校での講演依頼。受講生の顔は極力立てようと思っているので引き受ける。

06/** トークライブは今日も56人(75部用意した通信が19部残った。有料入場者は51人だそうだが)の参加。会場にちょうどいっぱい。いい感じである。初めての人も、何人かあるようだ。今日は快調に話す。前半は、「50才・退職の決断」と題して50分のもりが、ノリノリであつという間に一時間。休憩を5分はさんで、後半、「カウンセリングルームのなかでは」は時事問題・池田小学校児童殺傷事件に言及。個人の危機管理と安全は環境問題であるという視点で話す。

21時ちょうどに終了して、京都駅から伊丹空港に向かう。空港バスは離陸時間帯を過ぎたこの時間にはもう運航していない。京都—(JR)—新大阪—(地下鉄)—千里中央—(モノレール)—空港の経路で。21時17分発で22時40分着だった。移動中、新大阪で買った八角弁当をホテルの部屋で食べて寝る。

06/** 朝、5時に一度目覚めもう一度眠って、7時半に大阪エアポートホテルで起床。8時35分の青森行きにのるためだ。ホテルが空港内にあるので、チェックアウトして搭乗手続き窓口へ。この時間の伊丹空港の出入におどろく。いったい皆さんは何時に自宅を出ているのか？時間があるのでベーグルの朝食をカフェで。

飛行機は青森空港上空にきて前離着陸便2機を待ち、到

着がちよっと遅れる。昼食後、12時30分プログラム開始。オープニングトークと最初の事例検討の練習で3時間15分とばす。16時から健康家族面接ビデオを一本、そして症状のある家族のビデオ。18時終了でホテルに。19時から近くの中華「豪華楼」で懇親会。

06/** 日曜日、研修二日目。シティ弘前ホテルの12階レストランで朝食。目の前に雄大な岩木山の景色がひろがる。7ケース提出予定があつたが、結局、やはりあれもこれもはやめておいた。2ケース検討。児相の家族援助勉強会の青森開催を応援しておく。空港でいつものように海峡の幸定食を食べる。京都の仕事場に戻つたのは21時半頃。FAXとメールのチェックをして対応。そして夜中に帰宅。

マドリードの日本人学校教師・K本くんから、今年の夏にスペインにいらつしやる予定はありますかというメール。そういわれて思案する。現地に知人のいる旅はなかなかおもしろいからなあ。

この時点で、地域の継続ワークショップを開始している。札幌がいったん休止して、数年後に再開し、現在に至る。だからこころが先陣を切つて、もう15年近くなると言うことだ。

この間、同じように受講し続けてくれる人があり、新しい人の参加がありで、継続のダイナミズムが順調である。金沢や東京も長期になった。松江、高知のWSも基本同じ形態だ。関西エリアでは月例の家族勉強会を草津、大津、京都(立命館大)で継続中だ。

打診されたスペインには行けなかった。K本君は帰国して、本務校に復帰。突然、脳梗塞で倒れて、リハビリの後、復帰した。

06/** 定刻12時半頃、衣笠に。研究室でパンと紅茶少々。授業は社会システムと親子関係。国籍と戸籍からみの家族事件を話す。

大学院のクラスター終了後、教員三人で研究室で話す。ここで初めて一緒になったメンバーだが、クラスの中でいろいろ感じてきている関係づくりがおもしろい。なんだか久しぶりに仕事をするチームを持った感じた。クラスターになにか実感できる課題を持ち込んでみようと言つた。

今これを読むと不思議な気がする。中村正さん、村本邦子さんは十四年間、今もずっと一緒の同僚である。揃ってシドニーにも、ソウル(二度)にも、ロンドンにも、上海にも出かけた。飽きることなく話し続けて十四年はまあ立派だ。

途中から尾上明代さんも加わって、毎週月曜夜、クラーター終了後の「さと」での会食も、ハンパない回数になっている。基本このまま、私の定年退職まで続くのだろうか。公務員生活25年だったが、立命に定年まで居たら17年ということになる。やっぱり私は根気の男なのだよ。小学校の通知票に「根気がなく、気が散りやすい」と書いた高橋先生は間違っていた。授業でやっていることがつまらなかったのだと思うよ。

06/** 遅れている季刊「発達」のイラストをコロラドで仕上げる。本当に慌ただしく、映画館にも行けない毎日である。午後の授業の準備しながら、文部省に出さねばならないという業績書の記入。ここ二、三日の間にも、本意な講演依頼が着々と届いている。依頼者は勉強会に参加している人、訓練してきた人、大学院の社会人入学生など。

06/** 昼間はいろいろ雑用をこなして過ごす。青森の大会は早速日程変更しなくてはならないのか？九州の会合なんて聞いてない。どんな集まりなんだろう。夜は門真市の勉強会。講演を依頼してきたTさんがどの人か判明。

勉強会で質問されたから応えながら考えた池田小学校二学期まで閉校の件。詳細はわからないが、なんだかとても大げさに構えた合意だという気がする。父兄たちの多数がそれを承知したというところに、在校生の家庭環境が透かして見える。一般社会では、明日から小学生が二学期まで家にいるなんてことになったら、暮らしが成り立たない家だっただろう。なんだかたまらない気がする。

特別扱いが嫌いだ。昔から附属小学校という存在も、そこに通わせながら親も、特別だと思っている意識も嫌いだった。しかし世間はますます、お受験ブームで、我が家は特別、うちの子は特別の方向に流れていった。「発達障害」の一群とも相似形なものを感じる。そして「学校環境」は誉める人の少ない、クレームの巢のようなことになった。

そんな世の中になって久しい。個別に見れば、事情は誰にもある。そのことは認め合えばいいし、それこそお互い様だ。ところが世の中には、アンフェアだとも思えるような特別扱いがある。病気に逃げる、流行の症候群になって利得を確保する空気が蔓延する。そしてそれをネタにしたビジネスが隆盛になる。

社会システムの視点から見れば、いつの時代にもヒット商品や、新たな消費構造が作り出されてきた。近年、うつ、発達障害、不妊治療、高齢者の健康問題とそのターゲットは不健全化の一途をたどっている。「不安」産業ぐらいにしか、もう商機は見いだせないとマーケットが思っているのだろう。

健康な人が健康な消費をしてくれる健全な社会の比率をもう少しあげる努力をしないと、ますます消費はネガティブをカバーするためのエネルギーに向かう。

振り込め詐欺も同じ図式だ。原野を売った詐欺師達は、二束三文ではあるが原野を用意していた。今の詐欺師達は原野すら用意していない。支払い手の中にある不安を煽っているだけで、電話一本で札束を送らせるのである。

06/* 保健衛生専門学校で一日WS「人間関係論」に9:30~16:00まで。元気な小娘たちなので、キヤーキヤーワーワー騒がしい。話を聞くこともできるのだが、楽しませてやると頭になる。単発で集団を相手にするのは疲れる。最後はブラインドウオークを用意していたので、それで一息つく。

終了後、仕事場に戻って一息。夜はKISWECの理論講座二週連続の一回目。好調に話すが、聴衆は中味がやや真面目気味で戸惑いがあったかも。でもセンター職員はじめ、感觸良好。

新書「不登校の解法」が19冊売れる。40人余りの参加でこれはすごい。その後、山形から送ってきたというサクランボをいただきながら、所理事長と歓談。まだ22時前なのに、今日は帰宅の途に。

我ながら元気だなあと思う。近年、こんな仕事の仕方はしなくなった。朝、昼、晩と一日中、こんなに詰めなくなったのだ。その結果、忙しそうだが、あちこちにゆとりはある。

06/** KISWEC教師のための家族理解WS二回目。「境界」がテーマの一日。朝は、家族面接のデモンストレーション。その中のひと組みの話を聞きながらちょっと感激する。

名付けが一人の子供の運命を変えていった話。外国航路の船員をしていた父は不在がちだった。初めての子供が産まれたとき、両親はその時父の乗っていた船の名を娘に付けた。やがて次女が誕生。その時同居させてもらっていた伯母宅には子どもがない。名前を付けさせてほしいという希望を受け入れて、優子とした。やがて跡取り問題が話題になったとき、彼女を戸籍上のことだけでと養女にした。両親は本人にも意思確認をした。小学校2年生の時だった。

ところが6年生のとき、一家は引っ越しをすることになった。手狭になってきた住宅事情が影響していた。その時、親は娘が当然ついてくると思ったという。しかし本人の意志を確認したところ、世話になっている、年取ってきた養父母を置いていけないといった。そして親子はわかれた。

それから30年。いまま養母は私の家の裏で一人暮らし。実父母は健在。後年、姉は「あのとき、両親はあなたがついてくるものだと思っていたからショックだったと言っていた」と語ったという。

決定を自分に任せられ、意志確認をされることの苦しさを思う。幼い子に責任を押しつけてはならない。ある年令まで子どもは、よい結果だけを与えられて生きていいのだと思う。後になって、そうだったのだということを理解すればいいのだ。

午後一番のプログラム、早樫君はずいぶん話し好きになったものだ。三コマ目に担当する連れ子夫婦家族の事例、準備をすっかり忘れていた。緊張感が足りない。心せねば。

夕刻、業績書記入のため資料が必要なので本宮に。母が稲荷寿司を作っていたので食べる。しばし話し込む。

帰宅すると長男が来ていて映画「みんなのいえ」を見ているところだという。戻ってきて元気があったら「A. I.」の先行レイトショーにいくつもりとか。結果、午前0時から二時半すぎまで、一緒に見にいって疲れて帰宅。長いけれども、面白味のない映画。「母を訪ねて三千年?」、とにかくぐったり。

06/** 久しぶりに仕事場DANでのフリーミーティング。Mさんが二時五分前にきた。まだ椅子や机が用意できていな

い。Fくんは定刻に。Kさんが来てCくんがくる。Hさんが来て、Nさんが来て。KJさんがKKさん(洛北高校)を連れてきて、私をいれて9人は限界に近い。あれこれ話しは飛び回り愉快愉快。何を話したかは大方忘れていますが、楽しかった。たくさんの差し入れにテーブルは山盛り。

当時、そもそも京都市内にワンルームマンションを借りて、仕事場DANを開設した理由のひとつがこれだった。

人はあらゆることを職場に支配されがちだ。生活の糧(経済)を牛耳られるし、人間関係も職場を基盤に大きくコントロールされる。時間もそんなに自由にはならない。

この場所は、近接異分野のいろんな人が意見を交わせるようにという目標があった。当時流行だった異業種交流、名刺交換会みたいな顔つなぎ会にするつもりはなく、各分野のコンテンツについて、近接領域の人から自由に個人的な意見が欲しかった。そして、この目的は十分に果たせた経過が産まれた。

06/** 早めに寝たので早めに起きて、早めに仕事場に。文部省に提出しなければならない業績書作りにかかる。児相時代、出し続けていたレポート(紀要)がずいぶんたくさん、しかもテーマも多岐にわたって存在することに気付く。これらを一度読み返してみようと思いはじめる。大学の授業(学部)はもう十一回目になっている。

夜のクラスターは懇親会。大学近くの「嵐」で会費三千元。えらく楽しいのは何だろう。中村さんが遅れて参加。Uさんは来ていない。就職が決まって両立は困難になってきているのか。Gさん、Q君が両サイド。Tさんは映画をやたら観ていて、健康器具の通販にはまっている。話が合うので笑ってしまう。二次会に白梅町の喫茶店で七人でデザートを食べ解散。九時すぎなので仕事場に戻って、業績書の記入続ける。今月中が締切だ。

06/** 朝、携帯にFくんから電話。来年二月の門真市での講演依頼。夜は八日市勉強会が入っているが十三時半からで受ける。午後は女子大。前期あと一回である。アノレキシアの話をすると、教室はシーンとする。

家族療法訓練のボランティア家族は父母娘の三人家族。

微妙な話だが、ある種の典型パターンに気が付く。大学入学をきっかけに、家を出ようとして敗北した就職浪人物語。「発達」の次回原稿案。自立に関わる今日的な親の罨、子の罨、これは面白いテーマとしてかけそうだ。

06/** 朝一番、7シネマで「マレーナ」を観る。やっぱりいい。年上の女性に憧れる少年の物語はジャンルパターンだが、それでもやっぱりいい。終了後、パンフレットを買って、一階のMUJIでランチ。水曜日だからレディースデイとかでオバサンがおおい。

仕事場に戻って、メールの対応。新旭町の講演依頼、門真の講演依頼、情短全国大会のWSレジュメなど作って発信。月刊「児童心理」の原稿校正。業績書のチェック。夕刻からの八日市勉強会レジュメ作っていると、注文してあった日本近代文学の朗読テープが届く。そんなことをしていると出発時間になる。

教員が提出の事例は養護問題背景の子どもの話。ネグレクトで訴えれば、虐待対応可能だと思う。

06/28 あれよあれよで6月がおわる。今月はなにか知らない間に過ぎてしまった感じがする。朝は相談室。話に聞く児童福祉センターは、温泉旅館の増改築の結果のような肥大化に、働くものが悲鳴をあげている。専門性の使い方も、チームワークも、昔感じていたどうしようもなさそのままである。午後は家庭裁判所へ。離婚調停、三回で成立。同居している妻からの離婚の申し立てを、呼び出し状で知ったという変な夫婦だった。その後、次回の新件のことで、調査官と話す。児相も関わっている中学生。

家庭裁判所での体験は、私の児童・障害者相談機関での経験を、相対化させる力を持っていたと思う。「法」がベースにある場での、当事者間紛争解決の道筋作りは、福祉、教育のそれとは大きく異なっていた。

だから面白かったし、同時に、共感できないことも多かった。それは多分、どちらが適切かという話ではない。大きな秩序維持システムの中の各論としての整合性の具体化なのだ。それにシンパシーが持てないだけの話だから、私にとって法の世界はずっと関わっていたい世界ではない。

06/** 朝から桃山で家族療法のケースをとっている。Sさん、順調な印象あり。しかし一方、自分のセラピーの見直しもしたくて、午後はSKさんを中心に、NSさん、CB君、OR君とH君でケースカンファレンス。いろいろ思うこともあり、人の言葉に誘発される発言もある。

終了後、夏の旅の思案に、昨年同様HISへ。何となくトルコが再燃。でも直行便は一杯だとか。仕事場に戻って明日の「家族相談士プログラム」を準備をしながら、今日午後のカンファレンスを思い出しながら、いろいろ考えた。

本人にはほとんど合わなくなっている事実。そのために効果はどうなのか。そういうスタイルの治療的展開。

この時、54歳。もう十分に経験を積んでいるはずだが、それでも家族面接のすすめ方に、いろいろ思っている。67歳になる今、あの時と同じだとも思わないが、大して違ってもいい。新しい人に会い、そこから何がはじめられるかを摸索する作業に、もう分かった！と思える日は来ないのだろう。だから飽きないどころか、面白いのだ。分かってきたことが増えれば増えるほど、わからなさの世界の組み立てが興味深い。よくもまあ、こんな面白い世界と関われる仕事に遭遇したものだ。

夏のトルコ旅行は結局イスタンブールに一週間ステイする旅になった。妻と二人、市内のホテルを二度引越しながら、トルコの大都会をあちこち散策した。

おかげでイスタンブールの街は結構見当がつくようになった。この後、別の旅行の途中、乗り継ぎでアタチュルク国際空港で半日時間があつた。久しぶりのボスポラス海峡ウオッチにガタラ橋たもとのカフェに。馴染みの街が出来るのは素敵だ。

トルコ人が日本最良のように、私達もそうだった。しかし、国際的な課題を前にすると、クルドをはじめ、歴史的にもトルコ帝国は強大な軍事国家だった。